

「地震による電気火災への対策が必要です！」についてお話しします。お話しする内容は、次の3つです。1つ目は、地震による電気火災の恐ろしさです。2つ目はどう防ぐか、その対策です。3つめは、安城市の感震ブレーカー設置補助制度の活用についてです。

## 1 地震による電気火災の恐ろしさ

### ①地震による火災は、なぜ起きる

阪神淡路大震災の夜、神戸の街のあちこちから火災が発生しました。阪神淡路大震災でも、東日本大震災でも、地震のあとの火災原因は、圧倒的に「電気」なのです。

なぜか。地震では、家が左右、上下に激しく揺さぶられ、それが何分も続く。家の中の配線が無傷なはずがない。そのあと、電気復旧時に、そこから発熱・発火する。これが地震による火災のメカニズムです。地震火災は、通電を機に、同時多発的に発生する恐ろしさがあります。

### ②地震火災は、消火できるか

その時、消防車は来られるのか。地震は、広い範囲で発生しており、消防車が来てくれる保証はありません。仮に来て、電柱が倒れていれば、近づけない。また、水道管は破裂しており、消火栓から水は出ません。すなわち、火災を消せる力はゼロに近いのです。

### ③高棚町のような集落は、特に危険

高棚町のように、古い木造家屋が軒を接して建ち、道路が狭いところは、特に危険です。地震のあと、ひとたび火災が起きれば、消せないまま、次々と燃え広がってしまう。町並みも全て失ってしまいます。地震火災は、絶対に出さないことが必要なのです。

## 2 地震火災をどう防ぐか

### ①地震火災を防ぐ対策

地震火災を防ぐ決め手は、「感震ブレーカー」とされています。感震ブレーカーとは、字のごとく、地震の揺れを感知して、ストンと自動的に切れる電気ブレーカーのことです。

電気は、信号機を動かし、病院を動かすなど、社会生活に不可欠なものです。このため、電力会社は、一刻も早く、電柱まで、通電再開しようと努めます。

電柱と各世帯との境界が、ブレーカーです。地震の大きな揺れにより、屋内配線が傷ついた可能性があるため、安全確認ができるまで、各世帯がブレーカーを切り、電気をシャッタアウトすることで、家を守るしか方法がないのです。

### ②ブレーカーは、自分で切れる？

「ブレーカーは、自分で切れる。だから、感震ブレーカーは要らない」

そう思っていないですか。ブレーカーを切ることは、普段なら簡単です。

しかし、震度6の大地震は、未だ誰も経験していません。怪我をして、病院へ担ぎ込まれたため、切れないかも知れない。家族を助けようと必死になっているうち、切ることを忘れてしまうかもしれない。勤務先で地震が起きて、帰れないかも知れない。家族にどんな事があっても、地震の揺れを感知して、自動的に電気を切ってくれる、それが感震ブレーカーです。これ以上の対策は無いのです。

### ③本当に地震は来るか？

地震がいつ来るか、誰にも分かりません。

しかし、地震の確率は、30年の間に70%来ると言われています。私たちが生きている間には、まず来るということです。

### ④特に高棚町では、息子・娘の家も

特に、高棚町では、古い家の隣に息子・娘の新しい家があります。新しい家はローンで建てています。古い家が燃えれば3千万円、新しい家も燃えれば6千万円の損失です。しかも、子どもには、燃えた家のローンだけは残ってしまいます。親が、やるべき事(感震ブレーカー)を怠ったために、息子・娘が一生苦しむ、それは絶対にいけません。地震で家が壊れても、火災さえ無ければ、わずかな負担で済みます。火災は全てを失い、借金まで負ってしまいます。

### **3 安城市の感震ブレーカー設置補助制度を活用しよう**

#### **①2年間限定の補助制度**

安城市は、市独自に、今年度から、市内全域を補助対象地域とする、感震ブレーカー設置補助制度を設けました。補助金は、1件1万円。令和元年度と、2年度の2か年限定の制度です。令和元年度は、あと30件ほどで、令和2年度は100件です。補助を受けられるのは、申請順、すなわち、早いもの勝ちとなっています。

#### **②高棚町は、モデル地区指定**

市により、高棚町と箕輪町は、感震ブレーカーの普及モデル地区に指定されました。このため、高棚町内会は、この事業に積極的に取り組んでいただいています。申請用紙は、町内会のほか、石川和重さん、金沢電機さん、栄和建设さんでも手に入れることができます。書いた申請書類は、町内会を通じて、市へ提出することもできます。

#### **③補助の対象機種**

市場に出回っている感震ブレーカーは様々な機種がありますが、市の補助対象は、分電盤タイプ(内臓型)と分電盤タイプ(後付け型)に限定されています。コンセントタイプと簡易タイプは、安定性を欠いているため、補助対象外となっています。

#### ④補助の手順

補助の手順は、第1に、電気工事業者に自宅を見てもらった上で、どんな機種か、費用見積をもらいます。第2に、市へ補助申請を行い、市から交付決定通知を受け取ります。第3に、設置の前・後の写真撮影、自宅での設置工事を行います。第4に、市への実績報告・補助金請求を行います。手順が決まっていますので、ご注意ください。

#### ⑤すでに設置した人の感想

すでに設置した人から、ブレーカーが古く気になっていたのも、一新できて良かったとか、これまで漏電ブレーカーがなかったのも、感震ブレーカーと同時に漏電ブレーカーも設置できて割安だった、などの感想が寄せられています。

私も昨年6月に設置しました。出張などで留守にしているも、感震ブレーカーがあるので、大きな安心が得られました。私の場合、後付け型で5万円でした。全部新しくしても8万円とか10万円とか聞きます。

最後に、補助金は、たかが1万円です。しかし、されど1万円です。補助制度がある今こそ、これを活用して、感震ブレーカーを設置しましょう。そして、地震火災のない高棚にしましょう。